

エギーユ・デュ・ミディ:

エギーユ(針峰)はシャモニの町から数多く望めるが、この針峰はロープウェイで山頂まで行け、モンブランの山容を間近に見られるので、初めて訪れた人は必ず訪れる人気のスポットである。

ロープウェイの駅は鉄道駅の裏側にある。ホテルから歩いて、10分とかからない距離である。午後には視界が悪くなることが多いと言われて、朝早く空模様を確認して、一番ゴンドラに乗るつもりで、駅のチケット売り場に行くが、窓口が開いていない。受付嬢に聞くと、昨日の雨で山頂が雪と氷で危険な状態なので、除雪と点検を実施しているので、何時に運行出来るか不明ということだった。

その内に駅前の広場がチケットを求めて長蛇の列になる。一時間待った所で、ようやく窓口が開く。チケットを求めて、乗車口まで行くとそこでも大勢待機している。殆どの人が登山かトレッキングの若い人たちだ。一台に70人近く乗れるので、幸い二番ゴンドラに乗れた。途中駅で乗り換えて、20分くらいで山頂駅(3,777m)に到着する。

初めはシャモニの町を眼下に望む大パノラマを堪能でき、後半は垂直に近い氷壁を60度くらいで登る大迫力である。



ロープウェイは誰にでも高山に登った感動を味わうことができるので有り難い。左の写真はまだ途中であるが凄いパノラマが展開している。下にはシャモニ谷に広がった町が見渡せる。後半は氷壁を這うように登る。下の写真の様にほぼ垂直に近い岩壁が眼前に展開する。



20分で山頂駅に到着する。いきなり麓から2,750m登るので、中には高山病にかかる人もいるらしいが、自分は大丈夫だった。

山頂駅は山頂の岩を削り貫いて作られている。到着すると大半を占めていた登山客が一斉に大きなザックを背負い、トンネルを通過して反対側からトレッキングに出発していった。

一般の観光客はトンネル内の案内にしたがって、展望台に行く。右の写真はその一つ、紅い岩にある展望台だが、別料金になるが、エレベーターに乗れば、山頂にある展望台に立つことができる。

エギーユ・デュ・ミディの山頂は3,842m。富士山より高い。その頂上に立ってモンブラン山塊を目の前にし、さらに連なるアルプスの山々を見るのは爽快そのものである。寒さにもかかわらず、時間の許す限り眺め



回していた。言葉では表現できない。以下写真を中心に若干の説明を加えることにする。



中央の丸い峰がモンブラン（4,807m）隣の尖った峰がモンモディ、左がモンブラン・デュタキユル。



左のピークがグランド・ジョラス（4,208m）その左が北壁。右のピークがダン・デユ・ジュアン（4,013m）一緒にゴンドラに乗った登山客が雪道を降りていく。どこに向かうのだろうか？



一番ゴンドラに乗った登山パーティが歩いているのを見つけた。尾根を歩いてモンブランに向かっている。



氷河もある。峻険な岩壁の山もある。アルピニストがそれぞれ散っていくが、やはりモンブランが一番人気の様だ。人の歩いた道がその方向に続いている。

このエギーユ・デュ・ミディ駅から乗り換えるとさらに奥に行くことが出来る。イタリアとの国境にあるエルプロネルピーク駅までロープウェイに乗るとモンブラン山塊の角度を変えた姿を見られ、アルピニストになった気分を味わえると言われている、さらに乗り換えるとトリノ小屋を経て、イタリアのアントレーブ（クールメイユールの谷）に通じている。今回は残念ながら時間の制限があって、エルプロネルピークまで行くことが出来なかった。

シャモニにはこの他にもロープウェイが数本あって、また違ったアルプス体感が出来るようにになっている。さすがアルプス最大のリゾート地である。設備が充実しているので数日の滞在では見切れない。ここは長期滞在のコンドミニアムにでも宿泊して、天候と相談しながら、山登りやトレッキングを楽しむ場所なのだ。